

響和会会報



藝高 Acanthus

2011年秋 第8号

編集・発行 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 韶和会
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
TEL 050-5525-2406 FAX 050-5525-2530

第23回 藝高定期演奏会

大震災を経て改めて感じる音楽の力



長唄「娘道成寺」



山田流箏曲「松上の鶴」



生田流箏曲「遠砧」

思いを一つにして難曲に挑む

平成23年10月29日（土）、世界的な指揮者を数多く育てたフィンランド出身のヨルマ・パスラ氏を指揮者に迎えて、第23回定期演奏会が東京藝術大学奏楽堂で行われました。定期演奏会は年間行事の中でもメインイベントといえるもので、数カ月の期間をかけ全校挙げて合奏、オーケストラ、合唱の大曲に挑戦しています。夏休み後半からは授業以外にもインスペクターやパーティーリーダーが中心になって自主練習を重ね、より完成度を上げるため努力してきました。

抜けるような青空のもと会場の入り口には開場前から長蛇の列ができ、開場と同時にほぼ満席となりました。

第1部の邦楽合奏では、山登萬和作曲 山田流箏曲「松

上の鶴」、宮城道雄作曲 生田流箏曲「遠砧」、初世 杵屋弥三郎作曲「娘道成寺」、第2部のオーケストラと合唱では、ハイドンのオラトリオ「四季」の第1部から3曲、第2部・第4部から1曲ずつ、最後にシューマンの交響曲 第4番 二短調作品120が演奏されました。

合唱はオーケストラ演奏者以外の全員が参加し、専門外にも関わらず音楽レベルの高さを見せてくれました。熱気に満ちた演奏はプロのものとは一味違い、高校生らしく清々しく、そしてエネルギッシュでした。鳴りやまない拍手を受ける顔には達成感に満ちた表情があふれ、会場全体が温かな一体感に包まれていました。



定期演奏会当日リハーサル
(左・上)

■ロビーコンサート

定期演奏会に先立ち、2本のフルートとハープによるロビーコンサートが催されました。

プログラムはベルリオーズ作曲オラトリオ「キリストの幼時」、リスト作曲「ラ・カンパネラ」。明るい日差しが差し込み、10月末としては暑いくらいのロビーに大勢のお客さんが詰めかけるなか、優雅な音色が涼しさを運んでくれました。

フルート：八木 瑛子、永島 千晴
ハープ：石丸 瞳

♪ 生徒たちの演奏会の感想・後輩にひとこと ♪

●こんなに本番で緊張することも、またこんなに演奏に感動することも、人生で初めての経験でした。全ての芸高生の努力があって、あの最高の舞台を作り上げることができたのだと思います。温かく指導してくださったバスラ先生、半年間共に支え合った4人の素晴らしいパートリーダーとサブインベク、そして今回の定演に関わった全ての皆様に感謝いたします！
星野友紀（合唱インスペクター）

●パートリーダーという立場になってから、みんなをちゃんとまとめているのか、正直とても不安でした。しかし、積極的に自主練に参加してくれたり、私の言うことに耳を傾けてくれたソプラノパートのメンバーに、とても助けられました。本当にありがとうございました。12年生の皆さん、来年・再来年も頑張ってください！
大貴瑞季（ソプラノパートリーダー）

●聴いてくださった方の心に少しでも残るような演奏ができたならとも幸せです。今回パートリーダーをさせて頂いて、指導する事の難しさ、大人数で一つの曲を仕上げる事の充実感、達成感を経験しました。私はまだ未熟で至らない点も多々あったと思います。最後まで支えて下さったみなさん、本当にありがとうございました。
藤井早耶（アルトパートリーダー）

●去年のモーツアルトは本当に素晴らしい出来でした。僕達の代であんなに良い演奏ができるのかと不安だったので、みんなも積極的に練習に取り組んでくれて今年も芸高生として恥じない演奏になったと思います。時間も限られたなか、定期演奏会が成功するように尽力してくださった諸先生方、保護者の皆様をはじめ、多くの方々には心から感謝しています。
池邊啓一郎（テノールパートリーダー）

●今年はドイツ語ということで難しく心配も多くあったので、合唱においてここまで大きな満足感を得られたというのは感動の一言に尽きます。本当に最高に楽しかった。最後の学年での定期演奏会をこうした形で終えられたこと、支えてくださった先生方ははじめ多くの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。
鈴木宏英（バスパートリーダー）

●私達3年生にとって定期演奏会は、芸高生活の集大成でした。バスラ先生の温かいご指導の下、素晴らしい仲間達と一緒に音楽の喜びを共有できることを本当に嬉しく思っています。共に悩みながらオケを引っ張ってくれた同級生達、しっかりと支えてくれた後輩達、そしてご指導くださいました全ての先生方に心から…ありがとうございました。
坪井夏美（コンサートミストレス [ハイドン]）

●今年の定期演奏会は今まで一番集中力が試される本番だったのではと思います。指揮者が外国人の先生ということもあり、みんなの対応が遅れてしまったり、いろんな意見が出たりましたが、本番ではそれの良いところが充分に發揮できたとても楽しい演奏だったと思います。私にとって、芸高の定期演奏会で最高の仲間達と一緒に、そしてまた交響曲のコンミスをしたという事はとても大きな経験になりました。
江頭佳奈（コンサートミストレス [シューマン]）

●本番まで色々大変だったこともありましたが、バスラ先生のご指導の下、皆で協力し合い、素晴らしい演奏会にすることができました。一生の記憶に残る感動的な本番となり、喜びを感じていると同時に最上級生として最後の定演を終えてしまった寂しさも感じています。これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！
稻本有彩（チェロソリスト）

●先日はヨルマ・バスラ先生の素晴らしい指揮のもと、演奏会を無事に終えることができてとても嬉しく思っています。奏楽堂に響いた音を聴いたとき、客席からラボボーの声が聞こえたときの感動は、全身に鳥肌が立つほどのものでした。長いようであっという間だった高校生活の最後にこのような素晴らしい演奏会を経験できたことを、私は誇りに思います。
浅原由香（オーケストラインスペクター、オーボエソリスト）

●普段、邦楽の中だけの演奏なので、邦楽関係者しか聴いてもらえないのですが、このように洋楽の方々や一般の方々の中で演奏できたことを嬉しく思います。また、この機会をきっかけに邦楽に興味を持って頂けると幸いです。
佐田奏生（尺八）

●今回は三絃を演奏させて頂きましたが、本番は調和のとれた演奏ができたと思うので良かったです。練習で上手くいかないことも多く、改めて合奏の難しさを知り、今後もっと勉強していきたいと感じました。
佐竹舞香（箏曲）

●今回サブインベクとして定演に関わって本当に良かった、というのが率直な感想です。演奏中、合唱、オケ、そしてバスラ先生がひとつになったのを感じ、感銘を受けました。定演に関わられた全ての人に感謝したいです。半年間を通して、全体をまとめていくことの難しさを痛感しました。また来年、すばらしい演奏ができるよう頑張ります。
奥田なみ（合唱サブインスペクター）

指揮者紹介

ヨルマ・バスラ Jorma Panula

Profile

フィンランドの指揮者、作曲家、音楽教師。シベリウス音楽院で教会音楽、指揮を学ぶ。レオ・フンテク、ディーン・ディクソン、アルベルト・ヴォルフ、フランコ・フェラーに師事した。

トルク・フィルハーモニー管弦楽団(1963-1965)、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団(1965-1972)、オーフス交響楽団(1970-1973)で芸術監督、首席指揮者を務めた。フィンランド国立オペラには客演指揮者として頻繁に招かれている。また、ヘルシンキのシベリウス音楽院(1973-1994)、ストックホルムのストックホルム音楽大学、コペンハーゲンのデンマーク王立音楽院で指揮の教授を歴任した。その教授職を通して、指揮界に重要な影響を与え続けている。彼の教諭は「離れた手」とも呼ばれ、エサ=ベッカ・サロネンなど、一流の指揮者をフィンランド国外へ送り出した。

現在、客演指揮者や指揮教授として、パリ、ロンドン、アムステルダム、モスクワ、ニューヨーク、タンブルウッド、オタワ、シドニー、テルアビブなど、世界各地に出向いている。また音主催、東京国際音楽コンクール(指揮)の審査委員も務めている。

♪ パスラ先生より芸高生に向けて（反省会にて）♪

すばらしい!!!

リハーサルが多かったのが気がかりでした。

2回のリハーサルで十分だったでしょう。それだけ皆さんはずばらしい!!!
このたびはこのような機会をいただき、ありがとうございました。

今後のみなさんのご活躍を期待しています。

多くの指揮者達が言うように、書いてある譜面通りに演奏すればいいんです。
音楽を作ることはそのくらい単純なものなのです。

最後に塙原校長先生より、

「お疲れ様でした。演奏している姿が日ごろの芸高生とは別人のようでした。
皆さんでこのすばらしい演奏を作り上げたことを忘れないでください。」
との言葉を頂きました。



夏のテニス合宿 「テニガ」で真っ黒!!



楽器も携帯電話も暫し忘れて、今年も7月11日(月)～13日(水)に長野県菅平高原でテニス合宿が行われました。

昨年は雨に見舞われ残念でしたが、今年は快晴。夕立があつたり、夕食後に一瞬停電するハプニングがあったものの、テニスもオリエンテーリングも存分に楽しんだようです。日頃体を動かす機会の少ない芸高生も、運動不足を一気に解消したのではないでしょうか。この合宿で1年生は友達と親睦を深め、2年生は後輩の面倒を見ながら合宿を満喫し、3年生はクラスメイトとの最後の夏を名残惜しみながら、有意義に過ごしました。

全学年がひとつになって汗を流すテニス合宿、通称(芸高用語)「テニガ」は、学年を越えて交流できる貴重なイベントです。先輩後輩が一堂に合宿できるのも、全校生徒125名の芸高ならではかもしれませんね。



カレーは煮えた?



次のポイントへ

2年生演奏修学旅行 in 福岡・長崎 よからーが?! 九州

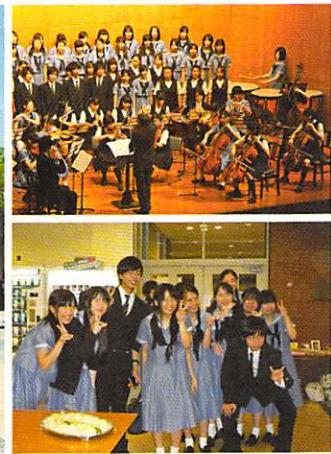
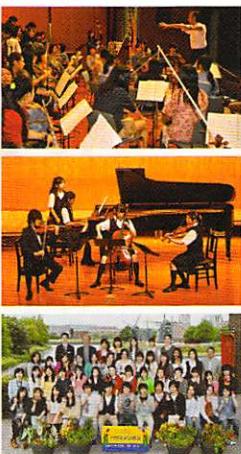
ようやく秋の気配が感じられる9月下旬、2年生が演奏修学旅行で福岡と長崎を訪りました。今年の交流訪問先は、創立126周年のキリスト教精神に基づいた教育を行う福岡女学院高等学校です。壮麗なパイプオルガンのある福岡女学院ギール記念講堂で9月30日(金) 音楽科の生徒との交流演奏会が催されました。

プログラムは邦楽、パイプオルガン、木管アンサンブル、合唱、オーケストラ等が用意され、両校交互に披露しました。芸高生側からは6曲のうち3曲が生徒の作曲編曲によるものでした。珍しい楽器編成の2本のフルートとピアノのための「幻想曲」、奏者4人の持ち味を引き立てるよう編曲された2台8手のためのリムスキー・コルサコフの交響組曲「シェエラザード」。震災で辛い境遇にいる方たちへの思いを込めた、小オーケストラのための「エクローグとダンス」。

福岡女学院側からは、キリスト教教育の学校ならではのミサ曲やオルガン曲を始め、ドビュッシー、フランシス・トーメ、ブームスの作品が管楽器やピアノによるアンサンブルで演奏されました。どの演奏も若々しさの中に美しさのある素晴らしいものでした。最後は両校生徒全員の合唱とオーケストラによる「大地讃頌」で締めくられ、ホールいっぱいに満ちた響きに来場の方々から惜しみない拍手が送られました。福岡女学院を始め関係者の皆様に温かく見守られながら音楽を通して交流できたことは、今後の生徒たちの良い糧になってくれるものと思います。

翌日長崎に移動して原爆資料館を見学したのち、思い思いの班別行動、ハウステンボスを楽しみ3泊4日の充実した旅行を無事終えることができました。

※よからーが…「いいでしょう?」と自慢気なことば



副科声楽先生紹介



大島洋子 先生

私はイタリア、ミラノに留学してベルカントの勉強をしました。如何に自然に美しく声を奏でるかは年月を重ねても未だに自分のテーマとなっています。歌の持つ魅力には計り知れないものがあります。心に喜びがあるとなぜかハミングしたり、自然に歌を口ずさんでいる事はありませんか？言葉を音に編み込んで歌は成り立ちます。思いが言葉として現れて、そこに音が重なって聴く人の心に染みていきます。声楽を学ぶと言ふ事は技術的な事ももちろん大事ですが、自分が心が詩から受け取った感動を音に乗せて雄弁に物語つけていくようになって欲しいと願っています。



王 真紀 先生

イタリア・ロマン派の作品研究と、クラシック発声で“歌うこと”を専門にしています。歌う時にまず大切なのは、体の構造を正しく理解しながら呼吸することです。正しい呼吸は、音楽の技術と、豊かな表現力を導いてくれます。これは、声楽のみならず全ての音楽実技に共通することでしょう。生徒には“歌うこと”を学ぶことによって、音楽をより魅力的なものにする呼吸を身につけ、専門実技の向上に役立てて欲しいと思います。



庄司祐美 先生

私の第一の専門分野はドイツリートです。また古楽から近現代までの宗教曲、演奏会作品やオペラにレパートリーがあります。副科で主教材となる古い時代のイタリア歌曲には、全ての音楽の基本と言ってよい音楽的語法が満載されており、私も大好きな分野です。副科に声楽のある芸高生の皆さんとは、声楽曲独特の魅力を存分に楽しみながら基本的な技術にも取り組み、「美」の世界に少しでも近づく喜びを共有できたら、と願っています。



中原雅彦 先生

私はイタリア語やラテン系言語のものを中心に研究し、演奏しております。普段はイタリア・ロマン派のオペラを中心にオペラ出演しておりますが、日本語訳詞上演も含み、多くの言語でオペラ・演奏会に出演しています。

声楽は音楽の基本とも言われ、音楽の中では唯一言葉とともに音楽であります。副科声楽のレッスンを受ける生徒さんは器楽を専攻している方が一般的です。器楽のレガートと声楽のレガートの差、バロック・古典・ロマン派各時代に様式など、器楽と声楽の小さいけれども大きな様式感の差を体験してもらい、声楽を本科の楽器に活かせるよう、多くの知識の引き出しを作ってもらえば、と願っております。



松本圭子 先生

平素、音楽に真摯に向き合う姿勢を身につけている芸高生に接し、皆さんの努力が感じられ清々しい思いです。歌うためには楽器である「体」を整え、その楽器を上手く使いこなさねばなりません。楽器を奏するためにも「体」を上手く使うことは必要なことなので、声楽を習うことで体に対する感覚が鋭くなると思っています。

私は、ドイツ歌曲、イタリア歌曲、日本歌曲などを中心に歌っていますが、これからますますグローバルになっていく世界観を考えるといろいろな言語で歌うことによってその言葉、国に興味を持っていただけただいいなあと思います。

副科声楽は芸高生の約7割が履修しています。必修ではなくても希望して受けている生徒が多いのは、ひとえに先生方の魅力によるところが大きいかもしれません。その成果は定期演奏会での合唱によく現れています。

芸高生活の集大成～公開実技試験♪

6月の3年生の公開実技試験は、芸高で学んだ全てを披露するのにふさわしく奏楽堂（管弦楽器と邦楽は201ホール）において公開で行われます。この日にかける生徒の気持ちを察すると聴く側にも感慨深いものがあります。精一杯自分の音を追い求める真摯な演奏にふれて、この輝かしい純粹さをいつまでも持ち続けてほしいと思いました。

- 〈公開実技試験～来年度の予定〉
●ピアノ： 6月17日（日）
●邦楽、管打楽器： 6月27日（水）
●弦楽器、作曲： 6月29日（金）

最後の保護者会・・・入試に向けて♪

定期演奏会の前日、3年生最後の保護者会があり担任の高橋裕先生から入試に向けての心得についてお話をありました。

「実技試験だけ出来れば良いわけではない。外部の生徒たちは全てにおいて真剣に取り組んでいることを認識し、芸高生として立ち居振る舞い、服装等もきちんとしてほしい。保護者の方も、見守りつつ時には温かい声かけをお願いします。」とのことでした。

現在3年生役員では「卒業を祝う会」を企画中です。同会は卒業式の午後に大学構内のキャッスル食堂にて行う予定です。また、3月27日には日中青少年交流演奏会が行われるそうで、卒業後も芸高とのつながりを持てるのは嬉しい限りです。

年が明けると登校するのは5日間のみ。残りの高校生活を充実したものにしてほしいと願っています。

第4回 北とぴあ 輝く☆未来の星コンサート♪

10月10日（月・祝）、北区の北とぴあ さくらホールにおいて芸高と北区立小・中学校の生徒による「輝く☆未来の星コンサート」が催されました。芸高生は定期演奏会で予定されているプログラムからハイドン作曲のオラトリオ《四季》第1部「春」より2曲（指揮：木部敏司先生、ピアノ伴奏3年大貫瑞季）とショーマン作曲交響曲第4番（指揮：鈴木恵里奈先生）を演奏。

会場には小中学生の親子が大勢聴きに来ていきました。なかには赤ちゃんを連れた若いお母さんの姿もあり、普段なかなか聴きにいけないオーケストラの演奏を気軽に聴ける貴重な場になっていたと感じました。



編集後記

駆け足のように過ぎ去った一年間の広報委員、普段は見ることのできない「芸高」の姿を見ることができました。時には先生方にご相談したり、またある時は多大なご協力をいただくことで、無事「春・秋」2号の発行に漕ぎ着けました。

現在学生の保護者様、次期新入生の保護者様、学校について興味のある方は是非広報委員活動をおススメいたします。「自ら知りたいこと」＝「保護者様の知りたいこと」であることがわかり、貴重な体験ができると思います。

一年間このような機会をいただきありがとうございました。

2011年度広報委員一同

会長：添田 ゆかり
副会長：山田 好、細野 瞳子
広報委員：佐田 晴美、星野 康裕、宮越 節子、赤間 知佳子、落合 阿砂美、松岡 小百合、有海 由紀子、金谷 恵、木内 奈子、中川 球子

芸高URL：<http://www.geidai.ac.jp/facilities/high/index.html>